

事業コード	H17-建-新-16		区 分	国庫補助	県単独
事業名	地方道路交付金事業(交通安全)		部局課室名	建設交通部 道路環境課	
事業種別	歩道等		班 名	交通安全施設班 (tel) 018-860-2494	
路線名等	主要地方道 常盤峰浜線		担当課長名	中山 敏夫	
箇所名	峰浜村大沢		担当者名	渡辺 博	
総合計画との関連	政策コード	C	政 策 名	快適で安全な生活を支える環境づくり	
	施策コード	03	施 策 名	交通安全や地域安全対策の推進	
	指標コード	02	施策目標(指標)名	歩道等整備率	

## 1. 事業の概要

事業期間	H18 ~ H21 (4年)		総事業費	2.0億円	国庫補助率	5.5/10	
事業規模	延長L=580m 幅員W=8.5(2.0-0.5-5.5-0.5)						
事業の立案に至る背景	本路線は沿線に埴川小学校の他、保育所、健康センター等があり、通学児童等の歩行者が多いにもかかわらず、歩道が狭いうえに連続性が無く段差や障害物が点在している。さらに冬場は既設の歩道が狭いことから、歩道除雪が出来なく、歩道に積もった雪のため車道を歩かなければならない箇所もあり、歩行者は常に危険な状態にさらされている。また、視距も悪く事故も発生していることから、平成18年度より歩道の整備及び視距改良を行い、安全かつ快適な歩行空間の確保を図るものである。						
事業目的	交通安全施設の整備により、事故の減少、歩行者の安全を確保し、交通環境の改善を図る。						
事業費内訳 事業内容 (単位:千円)			全 体	H18 年度	H19 年度	H20 年度	H21 年度以降
	事業費		200,000	30,000	55,000	60,000	55,000
	経費内訳	工事費	110,000			57,300	52,700
		用補費	61,000	8,600	52,400		
		その他	29,000	21,400	2,600	2,700	2,300
	財源内訳	国庫補助	110,000	16,500	30,250	33,000	30,250
		県 債	73,000	11,000	20,000	22,000	20,000
その他							
一般財源		17,000	2,500	4,750	5,000	4,750	
事業内容			詳細設計 用地補償	用地補償	歩道工	歩道工	
調査経緯	なし						
上位計画での位置付け	総合計画における「交通安全や地域安全対策の推進」を支援する事業						
関連プロジェクト等	なし						
事業を取り巻く情勢の変化	当該区間は近年事故が発生しており、道路利用者にとって危険な状態である。 事故件数H10:1件 H11:1件 H13:1件 平成10年6月と平成13年5月には負傷者がでて、地元峰浜村長より要望を受けている。						
事業効率把握の手法	指標名	歩道等整備率					
	指標式	歩道整備済延長/県管理道路延長					
	指標の種類	成果指標	業績指標	低減指標の有無	有	無	
	目標値 a	38 %		データ等の出典	なし		
	達成値 b	35 %					
達成率 b/a	92 %		把握の時期	平成17年 3月			

## 2. 所管課の1次評価

観 点	評 価 の 内 容 ( 特 記 事 項 )	評 価 点
必 要 性	本路線は集落間の通行のほか、二ツ井町(国道7号線方面)から八森町(国道101号方面)へのバイパス的(能代市内を回避)な通過交通も多く、12時間自動車交通量が1,498台(24h:1,873台)となっている。 歩行者数76人のうち学童・園児数が51人と通学路っており、交通弱者が多い。また視距も悪さによる事故も多く発生しており、視距改良も含めた歩道整備が必要である。	20点
緊 急 性	本路線は、交通安全指定路線になっており交通安全上の重要路線である。 歩道幅員の狭小により冬期間の歩道除雪に支障を来しており、歩行者が車道を歩行せざるを得ないなど、危険な状況が続いており、速やかに危険性の解消を図る必要がある。 本路線は小・中学校の通学路であるが、接触事故も頻繁に発生しており、峰浜村長より山本地域振興局あてに要望書が提出されているなど、早期の整備が望まれている。	10点
有 効 性	本路線における一体的な歩道整備により、冬期間の歩道除雪を効率的・効果的に行うことが可能となり、歩行者の安全性が確保される。 歩道整備により歩行者と車が分離されることで歩行者の安全性が確保されるとともに、接触事故等が発生している地点における視距も改善されることから事故の軽減が図られる。	20点
効 率 性	現在、幅員の狭小区間については人力による除雪を行っており、作業の非効率及び維持管理費の増を招いており、狭小区間解消により効率性向上及びコスト縮減が図られる。 事故状況は過去5年間では事故件数は1件、平成10年以降では3件発生しているが、見通しが悪いことによる車両の接触事故等は頻繁に発生していることから、歩道及び視距が改善されることにより安全性が確保される。	15点
熟 度	本路線は接触事故が頻繁に発生していることから、平成15年7月に大沢部落(部落会長はPTA代表)より峰浜村長あてに拡幅改良の要望書が提出され、それを受けて峰浜村長より山本地域振興局建設部長あてに要望書が提出されているなど、地元からの要望が強くある。また「峰浜村青少年少女安全指導隊」が結成され通学路の危険箇所交通安全の呼びかけを行うなど本箇所の危険に対する地元意識も高い。	20点
判 定	ランク ( )	85点
	全観点で高い得点となっており、交通事故を軽減し、生活の安全を確保する有効な事業箇所であり、実施すべきと考える。	
総 合 評 価	<p>選定 改善して選定 保留</p> <p>各観点の評価結果から事業実施箇所としての優先度が高く、実施すべきと考える。</p>	

## 3. 総合政策課長の2次評価

総合評価	選定 改善して選定 保留
	当路線は、沿線に小学校や保育所があり、交通安全指定路線となっているが、歩道が狭く、冬期除雪が困難なため車道の歩行を余儀なくされるなど、危険な状況にある。また、第1回選定会議での指摘を踏まえ、必要最小限の幅員とし、用地補償費を節減するなど、見直しを行っており、事業実施は妥当と判断される。

## 4. 財政課長意見

意見内容	選定 改善して選定 保留
	歩道が狭小な部分はあるが、地域の生活道路としての利用が主であり、通過交通量が少なく、緊急性は低いものと考えられる。歩道幅を当初計画より縮小し補償費の軽減を図るなど、費用削減の努力はみられるものの歩道整備そのものの緊急性、必要性については新たな材料はないものである。

## 5. 最終評価(新規箇所選定会議)

総合評価	選定 改善して選定 保留
	事業の実施は妥当である。

## 6. 評価結果の当該事業への反映状況等(対応方針)

<p>該当箇所を国に新規要望する。 事業実施にあたっては、コスト縮減等に努める。</p>
--

## 7. 公共事業評価専門委員会意見

<p>県の総合評価を可とする。</p>
---------------------

評価種別 新規箇所評価  
 適用基準名 交通安全事業（歩道）

事業コード(H17-建-新-16 )  
 箇所名 ( 峰浜村大沢 )

1. 評価内訳

観点	評価項目 細別	評価基準	配点	評価点	摘要
必要性	道路の利用状況				
	1 2 時間自動車交通量	1,000台/日以上	5	5	通学路以外の場合
		1,000台/日未満	0		
	歩行者交通量	500台/日以上	5	5	通学路の場合
		500台/日未満	0		
	歩道の連続性	100人/日以上	5	5	通学路以外の場合
		100人/日未満	0		
	歩行者・自転車交通量	学童・園児 40人/日以上	5	5	通学路の場合
		学童・園児 40人/日未満	0		
	道路幅員	計画区間前後に歩道あり	5	5	概ね500m以内
		計画区間前後に歩道なし	0		
計	歩行者・自転車交通量	150人台以上	5	0	
	道路幅員	150人台未満	0		
緊急性	交通安全指定道路	車道幅員（路肩含む）5.5m以上	5	5	一方通行の場合3.5m以上
	交通安全指定道路	車道幅員（路肩含む）5.5m未満	0		
計			25	20	
有効性	交通安全指定道路	指定あり	10	10	
	交通安全指定道路	指定なし	0		
	計		10	10	
有効性	歩行者等の安全性向上				
	歩行者等の安全性向上	あり	20	20	
	歩行者等の安全性向上	なし	0		
計			20	20	
効率性	事故状況（過去5箇年）				
	事故状況（過去5箇年）	6件以上	25	15	
		1～5件	15		
		なし	0		
計		25	15		
熟度	地元ニーズ				
	地元ニーズ	文書要望あり	20	20	
		口頭要望あり	10		
		要望なし	0		
計		20	20		
合計			100	85	

2. 判定

ランク	判定内容	配点	判定	摘要
	優先度がかなり高い	80点以上		
	優先度が高い	60点以上～80点未満		
	優先度が低い	60点未満		